

# 滿洲國を見て

## 清 水 住 之 助

僕は東京市の委嘱で舊臘約一ヶ月に亘つて滿洲、朝鮮と視察をしたが、大阪商船御自慢の新造船鶴綠丸で神戸港を出帆、亞細亞大陸遼東半島の一角天興の良港大連港に着いたのは丁度神戸港を立つてから四日目の早朝であつた。今回の旅行の目的は新興滿洲國の最近發展の模様と東京市と五大都市との滿洲國へ商品進出の狀況等の調査を兼ねた實地視察であつた。勿論滿洲國と云ふてもある廣い所を隅から隅まで見ることは到底その滯在日數を許さず、亦マネーの關係もあるから、僕は滿洲國滯在約十七日、朝鮮滯在約十日間にして、滿洲國では大連、旅順、奉天、新京、哈爾賓等の各主要都市と鐵道沿線を中心とした約廿哩程田舎に行つて見て、所謂眞の滿洲人農業生活等を見たのであるが、滿洲

國の交通關係狀況、殊に道路に付ては僕は將來新興滿洲國の殖產に產業に開發經濟的發展にはどうしても道路輸送關係が原動力たり得る限り、之を特に留意して見ることは無駄ではないと思ふて、所々留意して見もしたり亦當局にくどくしく聞いて見たが、僕の見る所では滿洲國の主要都市の道路、街道は相當立派に出來てゐる。殊に新京の如きは人口十五萬の舊長春の既成都市を基礎として、新に建設された區域は新京驛から南方高臺子附近を中心として約二百平方糎の長方形をなして、これに數個の大公園が官廳、商店街、工場街、住宅街に點綴し、市街は二線直角を原則としてそれに放射線を配してゐる。亦所々に廣場を設けて八里堡の新設中央停車場から發する幹線道路は幅員八十米三線

式のもので、市内交通は新京驛、新京神社、忠靈塔、戰跡寬城子、國務院前、宮庭府、清真寺、大同廣場、綜合運動場、南嶺戰跡、安民廣場等々と市内を縱横に高速バスを走らせ使用してゐる。このバスは乗客百二十人乗りで、聞く所に依れば獨逸の某自動車會社から最近科學の粹を集めて斯界の最も優秀なる自動車として之れを世界に誇り、我が東京市にて二三臺見本的に持參したそつだが、東京市に於ては之れを使用するに道路の幅員其他の點につき遺憾ながら市内に使用することが不可能なので、折角の優秀車も役立つことが出來ず、却て新京で試運轉して見ると非常の成績であつたから、新京から市内交通機關として之れを使用してゐるのである。僕も乗つて見たが、實に乗り心持のよいことは勿論、車内は善美を盡し防寒排暑の設備迄完備して、到底内地の都市邊りで使用してゐるのは比較にならない。最近之れを製造したる獨逸の會社では將來の輸送關係は市内は勿論、都市と田園を結ぶ交通は自動車に依るのは經濟的であるから益々その傾向に従ひ、將來の交

通機關を見透して斯く遠近兩距離にて使用出来る優秀車を作つたのだそつだ。これを使用してゐるのを見ても新京の道路は如何に立派に完備してゐるかは推察することが出来る。然し新京と云ふても全部市内を處隅から隅まで道路が完備してゐる譯けではない。是を一步舊市街即ち滿人の多數居住してゐる區域に入れば未だ鋪裝は出來てをらず、人道と車道の區別もなく、全く我國僻地の町々に見るが如き、雨降れば泥水所々に溜り、全く歩行にも困難箇所が澤山ある。これは敢て新京のみに限らず、滿洲國主要各都市の道路は幹線道路は鋪裝もあり立派であるが、現在では尙道路整備が行はれて不備の點は多々あるやうである。

一體滿洲國に於ける道路は、事變前迄は打續く内亂に財政難のため捨置かれた結果、荒廢その極に達して、殊に雨期の泥濘と乾燥期の砂塵に悩まざるゝこと甚しく、これがために夏期は車馬の交通殆んど杜絶して、只だ四季を通じて半歲は河川、湖沼悉く凍水堅氷に閉ざるゝから、道路橋梁はなくとも到る處通行し得る。從て道路交通は容易に拓

け貨物の輸送は主としてこの期間に行はれたそうである。

成程そう聞いて見ると僕は前記の如く鐵道中心に廿哩程田舎に二三回入つて見たが、建設上から見ると雑然と隨時斷片的に建設されてゐて、文化的にも經濟的にもその配置は宣しきを得てゐない。亦個々の路線に付て見ても建設工事の如きものは非科學的なばかりではなく、建設後も未だ嘗て維持修理せられたやうな跡があるのは、珍らしい位である。僕は満洲國交通部の當事者に付て多少道路のことも聞いて見たが、夫れに依ると満洲國が成立後間もなく國內治安と確保上の必要から國防、政治、經濟及地方開發等の方面から觀察して道路修築の必要に迫まられて、建設機關の確立に先立ちて應急措置として、國道建設十ヶ年六萬糸計畫案に基き、特務部に委嘱したが關東特務部では直ちに工事を實施機關として奉天に臨時道路建設事務所を設置し、茲に建國初年度政府直轄土木事業として工を起すに至つたのであるそうである。然し政府は建國二年目から國道建設事務一切を特務部から繼承して、専ら國直轄に屬する道路建設

事業の施行統制と治水利水の調査をも開始したのであると

のことである。第一次國道建設計畫として緊要なる地方の道路建設に重點を置いて六十二線總延長七千五百五十糸の國道路線を選定したのであるが、建設費としては濕地山地若くは河川横斷等のため、特に構造物を要する地方と蒙地の如きは只だ單に道路標識位で道路の用を便せらるゝ地方とは自からその建設費に多大の差額が生ずるのは當然の次第である。大體一糸當り建設費は三千五百程度だとのことであるが、建國以來三年の末迄に總經費三千七百萬圓を費して、約九千糸の國道及十四箇所の橋梁を建設したそうである。

そうして第一次計畫が終ると直ちに第二次の建設計畫で建設費糸當り五千圓として着々實行に着手したそうだが、第一次計畫の三千五百圓に比しては約一倍半となつてゐる。この理由を聞いて見たが、四季を通じて自動車運行出来るやうに最少限度の道路建設を目標としたのだそうである。當局はこの基準に従つて工作を進めたが、水害の復興

工事、支那事變に伴ふ應急處理その他工事材料の高騰によつて、障礙があつたため第二次計畫の初年度の豫定計畫の國道建設千三百糸、改良二千八百糸、橋梁建設十五ヶ所には多少の變更があつた模様である。地方道路の方は建國以前の滿洲には道路施設と云ふが如きものは絶無と云つてよい位で、全く見るべきものもなく、單に官憲が賦役又は強制的に人民を酷使して、それを建設するか又は地方民から必要に迫まられて自發的に建設した位のものであつたので、建國後は各省に土木科を設置して、地方道路行政の指導監督に當つて、年々豫算を各省に交付して地方民が自から進んで賦役に服する方針を探りて地方道路の擴充整備に努めた結果、相當の實績を擧ぐるに至つたやうであるが、僕は奉天で市外約十五六糸の離れた東方にある、清の太祖高帝を葬つた東陵にタクシーを走らせて、あの朱壁綠瓦空に聳へ清朝盛なりし往時を回想したが、その行く道路は鋪装こそしないが、相當の幅員であり又貨物自動車乗合自動車等も特に走つてゐる。貨物自動車による運搬等にも何等差

支のない道路と感じたが、然し北滿の中心都市哈爾賓から一寸二十糸程田舎にはいつて見ると、未だ道路と云ふ道路は出來ていない。これは敢て哈爾賓のみではない。滿洲國交通の動脈たる滿鐵沿線の各小都會から十糸も奥に入れば全く道路と云ふ道路はない。滿人は例の滿洲馬を引いて高粱其他農作物を積んで時々運搬してゐるのに出遇ふたが、道と云ふ道はなく高粱畑の中を半ば荷車を覆がへしつゝ二人で押して通ふに度々出遇つた。それを見ても新京の都市計畫諸官衙の建設等を見れば全く建國僅か七ヶ年位でよくもこれ程立派に出來たものだと感ずる。

大連、奉天、新京、哈爾賓等の主要都市を除く小都會部落更に之等に通ずる地方田舎との交通道路は尙今後の努力に期待する外ない。茲に再度當局の話を持ち出すが、將來に於ける計畫概要是康德五年度の施行豫定は治安道路建設二千三百糸、改良道路五百五十糸、地方道路二千八百糸、警備道路千糸、移民道路七百糸だそつだが、これが全部豫定通り完成すれば國道の竣工路線約八千九百糸地方道路新

設及改良同一萬糸合せて一萬九千餘糸に達して、建國前  
の既存道路三萬七千糸の半數に當る道路が新設又は改良さ

れたわけになるのであるから、相當面目を一新して滿洲國  
開發原動力として多大の効果を擧ぐるに至るであらう。

## 古渡橋を語る

### 茨城縣廳土木課

霞ヶ浦に注ぐ河川の内、小野川と云へば南方に於ける雄  
大なるものであるが、その邊一帯は平地のことであるし、  
地面は低いから、一朝霞ヶ浦が氾濫すれば田も畠も烟も野も町  
も一體の大平原と化してしまふのである。

その小野川の然も霞ヶ浦への出口と云へば、もう霞ヶ浦  
の小波を受ける所謂水郷であつて、春は翠の柳、秋はかれ  
すゝきの穂先から筑波山を眺める風情は亦格別である。指  
定府縣道阿波木原線はこの湖岸を走つて稻敷郡鳩崎村、古  
渡村入會のところで横過する。

此處は昔から名高い船着き場であり、渡船場であつた。

昔は殷賑を極めた相であるが、時代の變遷と共に水運が陸  
運に變り、調落の一途を辿つて行つた。しかし歴史は亦繰  
り返して陸運と軍事で再興の兆が現れてゐる。又渡し場と  
しては「十三塚碑文」の語るやうに根本六左衛門がこの橋  
畔で男らしく死られてゐる。

舊橋は明治三十九年十二月に架設せられた木造桁橋で、  
橋長八二・〇米、有效幅員二・九米であつた。その後大正  
十五年と昭和五年とに殆んど架換に等しい程度の大修理を  
なし、今日に至つたのである。

新橋は昭和十一、十二年度の繼續事業として計畫され、